



森高志専務理事による「みみはら2030年の樹」の報告



みんなでフレイル予防体操！

最新刊!



西谷文和さんの著書
抽選で3名様に
プレゼント!

応募期間：3月3日(月)～28日(金)
応募方法：①氏名・年齢 ②住所
③電話番号 ④地域の皆さん健康で
くくり、つながりづくりをテーマにや
てみたい、やってほしい企画を書いて
ください。楽しい企画をお待ちしてい
ます！
①～④をご記入の上、メール・ハガキ
でクイズの宛先まで送ってください。

にされる社会、運動も事業も前進する1年とするために、健康友の会みみはら・大阪みなみ医療福祉生協の皆さんと協力・共同を大事にして進めて行きましょうと、呼びかけて締めくくられました。

大阪みなみ医療福祉生協の中村三千人理事長から開会あいさつの後、両組織から活動報告がありました。

「街角健康チェックは、支部・班活動の原点」のタイトルで、保健委員を中心とした様々な場所に出向いて血圧測定や体脂肪測定、骨密度測定などを実施する取り組みです。

の会のみはらからは、同
仁会健康増進室・北出洋
夫部長が簡単な報告の
後、実践を交えたフレイ
ル予防体操を行い、会場
を盛り上げました。



大阪みなみ医療福祉生協
中村三千人理事長



健康友の会みみはら
江戸道子会長

問した様子や今年開催される大阪・関西万博の危ない現状を、大阪維新市政・府政を交えて報告して頂きました。

最後に、専務理事から、能登半島地震の復旧の厳しい実態と同仁会で取り組まれて いる「みみはら2030 年の樹」について報告がありました。

結びの言葉として、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる 街」へもっとケアが大切

惜しまれ声がでておい、今後はもつと緩い形で、「ご飯までいかずとも、気軽に一緒にお茶ができる新たな空間づくりを模索し始めている▼ちょっと立ち寄れる、誰かがいるとここで共に時間を過ごせる空間。ぽつんと暮らす人がどんどん増える時代にあつて、ゆるい繋がりを感じられる場があることで助かる人はいるはずだ▼京都大学の歴史学者藤原辰史の「縁食」という言葉に通じる視点で興味ある方は是非検索を。今後はささやかかもしれないが、人ととの縁を大事にする「ゆつくり力」ファード再出発できないかと、妄想する今日この頃。みなさんの声をぜひお聞かせください。(緒方浩美)

耳原鳳クリ
ニツクで去る
12月13日友の
会 有志による
昼食会が25年
の幕を閉じ
た。新フリーツ
クの構造上、
調理場の確保ができなか
つたことと作り手の後継
者不足で一旦終了の決断
になつたと聞く▼おしゃ
べり昼食会は池田信明先
生の発案で始まつた毎週
金曜の昼に有志が集まつ
て昼ごはんを作つてみん
なで食べる、という取り
組み。週1回ここに来る
時だけが人と話す時間や
ねん」といった人も混じつ
ており、地域のなかで一
人ぼつちから救われたひ
とも少なくないのではないか。
集つていた人たち
やフリーツク職員からも
惜しう心がござらう、今

聽診器

耳原鳳クリ
ニツクで去る
12月13日友の
会 有志による
昼食会が25年
の幕を閉じ
た。新フリーラン